

一年でぎゅっと！ 日南町で林業技術と、 その心得を学ぶ。

にちなん中国山地林業アカデミー — 日南町 —

森林に近い町の強みを活かし、人間にしかできない仕事を次世代に引き継ぐ。
「にちなん中国山地林業アカデミー」の今取材しました。

左から、農学博士で教育運営科長の小菅良豪さん、豊富な現場経験を持つ林産主任の森本康史さん

日南町から日本の林業発展へ

令和元年4月、町立としては全国初となる、林業の担い手を育成する学校「にちなん中国山地林業アカデミー」（以下アカデミー）が開校しました。面積の9割が森林という日南町の強みは、人や暮らし、産業が「森林」に近いこと。しかし、これまで「林業のまち」と自負しながらも十分にその強みを活かしきれていなかった反省から、町は「森林」を中心とした地域づくり、人づくりに挑戦することを決めました。「このア

カデミーの魅力の一つは、卒業後の就職地を自由に選べることです。林業の担い手不足は全国的な問題。日南町だけがよくなっても、日本全体の林業が成り立たなければ意味がないと考え、全国どこに就職してもいいようにしています」と小菅良豪さんは話します。それでも卒業生の2割は日南町に移住するケースもあるといいます。

環境を活かした実習内容

日南町は標高280mから1260mにあり、中国山地のほぼ中央にあります。実習場所は町が保有する広大な668haの森林で、四季折々の状況に応じた実践が可能です。日本林業のほぼすべての作業を体験できる理想的な立地も魅力です。

修学期間の1年でチェーンソーの扱いから重機操作まで森林管理を体系的に学べる、濃密な実践カリキュラムが組まれています。教員は主に小菅さん、森本康史さんほか5名。現場を知り尽くした教員が、授業から進路指導まで一貫してサポートします。



チェーンソー
重機操作

「今日も一日、

ご安全に！」

にちなん中国山地 林業アカデミー

現場実習を中心に、森林・林業の知識と技術、安全管理を学びます。地域の林業を担う人材を育成する実践的な教育機関です。



のこぎりを使って木の切り方を指導する

今年は、全国から集まった20代から60代までの7名が在籍し、林業の一連の過程を学んでいます。林業は、大きく分けて森を育てる「造林」と、育った恵を活かす「林産」から成り立っています。造林では草刈りや苗植え、枝打ちなどを行い、林産では木を倒して丸太にして出荷します。

取得できる資格は10以上あり、狩猟免許も取得できます。「日南町はまだ深刻ではありませんが、鹿の食害をどう防ぐかは林業界全体の課題です」と小菅さん。技術や適切な対策の習得はもちろんのこと、森林を守る意識も育んでいます。

命を守る技と判断力を磨く学び

設立からの8年間で、約70名の卒業生を育成してきたアカデミー。林業には地形や木の傾きなど、状況判断が不可欠です。そして経験に基づく判断が求められる場面が多くあります。「事故だけは本当に怖い。実は林業って大胆な人より、少し臆病なくらいの人のほうが向いているんじゃないかと思っています。危険を察知したりできるので」と森本さん。かつては危険と隣合わせの仕事でしたが、機械化の進展により効率と安全性は格段に向上しました。とはいえリスクがゼロにはなりません。事故を防ぐため、現場で注意すべき点や「命を守る」すべを丁寧に伝えたいと森本さんはいきごみます。

人と森をつなぐ森林教育

町では「野生を取り戻す」をテーマに若年層への森林教育に力を入れています。その中核を担っているの

がアカデミーです。小学生の宿泊研修では薪割りやキャンプファイヤー、巣箱づくり、中学生には日野川の源流歩き、高校生には伐採体験を提供しています。旅行会社がコーディネートし、県外の高校から依頼がくることがあります。「鳥取に住んでいても森に入ることがない子が多い。身近に感じられるはずの自然は言葉だけの存在になっているんじゃないかな。整備された登山道では味わえない森林の姿を実際に体験してほしい。自然と向き合って森が持つ価値や役割、そして資源として活かす産業である林業を知る。その入口になればと思います」と森本さん。森に親しみかけが広がることを願っています。今年5月には、鳥取大学の学生が授業の一環として町を訪れ、アカデミーで林業体験をしました。



生きものとのふれあいを楽しむ様子

変わる技術と、変わらない人の力

「アカデミーの10年後は、学ぶ内容が大きく変化している可能性があります。ICT化が進むと必要な技術が一気に変わるため、教育内容も柔軟に見直していかなければなりません。また、ブルーカラー分野では

AIではできない作業が多いため人手不足が続いています。林業も同様で、現場の多くの工程はAIでは担えず、人間でしかできない判断や作業が残るという点で、将来性のある仕事です」と小菅さんは語ります。森林を育てるには人の力が欠かせません。そして産業だけではなく、環境保護の視点からも林業が見直されています。森林は適切に管理し資源として活用することで、木材の供給だけではなく環境保全や災害の防止にもつながります。

時代に合わせてやわらかに変化しながら、林業の未来を支える力を育みます。



ベテラン臨時講師の見田勝彦さん

「あとは頑張って やってくれりやええ」

ズバリ！林業の魅力は？



小菅 弘

仕事の成果がすぐ目に見え、森がきれいになるのが清々しいですね。育てた木が大きくなっていくのを見続けられるのもいい。山の仕事もサラリーマンとしては始められますし。



森本 弘

体を動かして、外の空気を吸いながら仕事ができるのがいいと思います。一本として同じ木はない。状況に応じて工夫して、狙ったところに木をどう倒すかを考えるのも好きです。

The Forest Is Our Office.

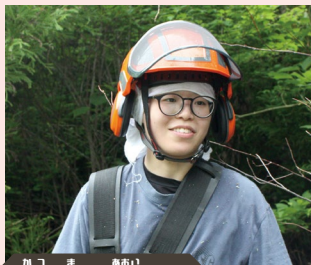
生徒の声



深谷 英士

東京都出身

自然の中で働きたいと思っていました。今はひたすら楽しいです。卒業後は日南町で林業をしたいと思っています。ゆくゆくは林業の魅力を広く伝えたいです。



勝間 碧

東京都出身

林業は想像していたよりも頭を使う場面が多く、思った以上に考えることがあったと知りました。卒業後は山口県長門市で地域おこし協力隊として働きます。



磯田 洋

島根県出身

以前はスポーツクラブで30年働いてきました。林業にはどうしても怖さがありました。でも今は機械の不調に気づけたりと、だんだんおもしろくなってきました。



令和8年

11.22

日

オープン
キャンパス

働く車も登場する……かも！

詳細はアカデミーまでどうぞ！！

Contact

にちなん中国山地林業アカデミー

〒689-5212 日野郡日南町霞729

TEL: 0859-82-0830

FAX: 0859-82-0832

MAIL: info@nichinan-ipc.or.jp

活動の様子等はこちらから

